

ルーマニア月報

2024年6月号

本月報はルーマニアの報道をもとに、
日本大使館がとりまとめたものです。

令和6年7月12日
在ルーマニア日本国大使館作成

主要ニュース

【内政】

- 6月9日、地方選挙・欧州議会選挙が実施され、PSD-PNL（社会民主党・国民自由党選挙同盟）の連立与党が圧勝（欧州議会選挙では48.55%の投票率でルーマニア33議席中19議席を獲得、地方選挙ではPSDが全国的に議席を伸ばし、PNLもそれに続いた、極右・民族主義政党のルーマニア人統一同盟（AUR）は欧州議会選挙では14.93%の得票率で6議席を獲得したが、地方選挙では10%以下の得票率で伸び悩んだ）。
- ブカレスト市長選挙ではダン・現市長が再選を果たした。
- ドゥルラ USR 党首が上記両選挙の惨敗を受けて党首を辞任。6月26日、ラスコニ・クンプルング市長がオンライン投票で68.14%を獲得し USR 新党首に選出。

【経済】

- 6月12日、国家統計局は、5月のインフレ率が5.12%に下降した旨発表。
- 6月17日、ルーマニアの農業資材卸売業者のナチュレボ社は、住友商事が同社を買収した旨発表。

【外政】

- 6月12日、オドベスク外相は、ドイツ・ベルリンで開催されたウクライナ復興・再建・近代化に関する国際専門家会議に出席。
- 6月15～16日、オドベスク外相は、スイス・ビュルゲンシュトックで開催されたウクライナの平和に関するサミットに出席。
- 6月11日、ヨハニス大統領は、ラトビア・リガで開催されたブカレスト9会合に出席。
- 6月20日、ヨハニス大統領は、国防最高評議会において、NATO 同盟国に対し、NATO 事務総長への立候補を取りやめることを表明した旨発表。

【防衛・安全保障】

- 6月20日、ルーマニア国防最高評議会は、ルーマニアが現有するパトリオット・システムをウクライナへ供与することを決定。

【我が国との関係】

- 6月5日、片江大使はイサレスク・ルーマニア中央銀行総裁を表敬訪問。
- 6月8日、片江大使は第2回ルーマニア寿司に出席。
- 6月14～22日、日本が特集国に選ばれたトランシルバニア国際映画祭（TIFF）が開催。
- 6月19日、片江大使は在ルーマニア日本商工会によるティミショアラ・ミッションへ参加。
- 6月21日、2025年大阪・関西万博のルーマニアパビリオンの着工式が大阪で開催。
- 6月26日、片江大使は、イヴァン研究・イノベーション・デジタル化相を表敬訪問。
- 6月27日、ヨハニス大統領は、オヴィディウ・ラエツキ氏を正式に駐日ルーマニア大使に任命する政令に署名。
- 6月28日、JETRO 及び駐日ルーマニア大使館共催による第2回日・ルーマニア・イノベーション・フォーラムが東京で開催。

内政

● 一部の公務員の給与の引き上げ

- 5月21日、労働省は緊急条例案を公開協議にかけ、公的文化機関の職員、政府・議会・一部省庁の公務員、地方選出の公務員の給与を10%引き上げたい考えを示した。引き上げは2024年6月と2024年9月の2回に分けて実施予定。
- 5月21日、議会職員100名以上が給与に不満を持っているとして下院本会議場前で抗議活動を行った。また、首相府政府職員の間でも抗議活動が行われた。
- 5月21日、トゥルカン文化相も18日に政府前で抗議した美術館職員と連帯していると述べ給与アップを求めた。

● コルデア元ルーマニア情報庁第一副長官の起訴

- 5月24日、DNA（反汚職総局）はコルデア元ルーマニア情報庁第一副長官とダンブラヴァ元同庁課長を不当な影響力行使の罪で起訴し、出国禁止付きの保釈で司法管理下に置いたと発表した。
- ルーマニア情報庁時代のコルデアは、特にバセスク大統領の任期中に政治に大規模な介入を行った大物権力ブローカーと見なされていた。コルデアは当時のキョヴェシ DNA 長官と連携して汚職との闘いを利用し、恐喝や証拠なしに人を刑務所に送るなど、政治ゲームに影響を与えたとして何度も社会民主党から非難されてきた。

● 欧州議会選挙の結果

- 当地中央選挙管理委員会が発表した欧州議会選挙の最終結果は以下の通り。
 - PSD-PNL（社会民主党・国民自由党選挙同盟） S&D (PSD) / EPP (PNL) 48.55% 19議席
(PSD:11議席、PNL:8議席) ←【前回】(PSD: 8議席、PNL10議席)
 - AUR（ルーマニア人統一同盟 無所属） ECR 14.93% 6議席 ←【前回】1議席
 - ADU (USR-PMP-FD)（統一右派連合） RENEW Europe (USR) / EPP (PMP) 8.71% 3議席
(USR:2議席、PMP: 1議席) ←【前回】USR: 1議席、MPM: 2議席
 - UDMR（ハンガリー人民民主同盟） EPP 6.48% 2議席 ←【前回】2議席
 - SOS Romania（S O Sルーマニア） 5.03% 2議席 ←【前回】0議席
 - REPER（ルーマニア欧州刷新プロジェクト） RE 3.74% 0議席 ←【前回】5議席
 - Nicolae-Bogdănel ștefănuță（ニコラエ・ボグダネル・シュテファヌツァ） Greens/EFA 3.08% 1議席
←【前回】1議席

● 地方選挙の結果

- 当地中央選挙管理委員会が発表した地方選挙の主な結果は以下の通り（一部暫定結果あり。）。
- 【政党略称】PSD：社会民主党、PNL：国民自由党、AUR：ルーマニア人統一同盟、UDMR：ハンガリー人民民主同盟、USR：ルーマニア救国同盟、PUSL：社会自由ヒューマニスト党

【県議会議長選挙】

政党名	政党名
PSD	25
PNL	12
UDMR	4

【県議会議員選挙】

政党名	議席数	全国での得票率	全国での票数
PSD	521	33.5%	264万票
PNL	412	27.63%	217万票
AUR	159	10.7%	84万票
UDMR	104	6.43%	50万票
USR	75	8.29%	65万票

【市町村議会選挙】

政党名	議席数	全国での投票率
PSD	16,507	32.52%
PNL	12,799	26.13%
AUR	3,528	9.53%
UDMR	2,525	5.42%
統一右派連合	961	6.70%

【市町村長選挙】

政党名	ポスト	首長占有率
PSD	1,676	34.74%
PNL	1,133	29.07%
AUR	30	6.27%
UDMR	20	4.32%
統一右派連合	28	6.28%

【10大都市における市長選挙当選者（当地報道振り：中央選挙管理委員会は未発表）】

ブカレスト	ダン・ブカレスト現市長（無所属／統一右派連合支持）
クルージュ・ナボカ	ボック現市長（PNL）
ヤシ	キリカ現市長（PNL）
ティミショアラ	フリッツ現市長（統一右派連合（USR））
コンスタンツァ	キツァック現市長（PNL）
ブラショフ	スクリプカル候補（George Scripcaru）（PNL）新
クライオヴァ	ヴァシレスク現市長（PSD）
ガラツィ	プキアヌ現市長（PSD）
オラデア	ビルタ現市長（PNL）
プロイエシュティ	ポリツェアヌ候補（Mihai Politeanu）（無所属）新

ブカレスト市長選挙

ダン現市長（無所属／統一右派連合支持）	352,734 票 47.94%
フレア前家族相・前ブカレスト市長（PSD）	163,147 票 22.17%
ピエドネ・ブカレスト第5区長（PUSL）	111,411 票 15.14%
ブルドジャ・エネルギー相（PNL）	57,336 票 7.79%
エナケ候補（AUR）	22,208 票 3.01%
シヨシオアカ上院議員（SOS）	18,531 票 2.51%

● USR 党首の交代

- ドゥルラ USR 党首が欧州議会選挙及び地方選挙の惨敗を受けて党首を辞任。
- 6月26日、2日間にわたって行われたオンライン投票で68.14%を獲得し、ラスコニ・クンプルング市長がUSR新党首に選出された。同新党首はルーマニア大統領選挙にも出馬を宣言。

● 選挙日程

- 大統領選挙は、第1回投票が11月24日、決選投票の場合は12月8日を予定。
- 議会選挙は12月1日を予定。

経済

(1) 主要経済統計とりまとめ (国家統計局、財務省、ルーマニア中央銀行 発表とりまとめ)

国家統計局 (INS)

	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2	2024/3	2024/4	2024/5
貿易収支 (億€)	-255.553	-289.471	-19.584	-41.420	-66.990	-93.209	N.A.
前年同期比 (%)	-17.6	-15.1	-15.5	-5.2	-1.5	+5.0	N.A.
消費者物価指数 (%)	6.72	6.61	7.41	7.23	6.61	5.90	5.12
失業率 (%)	5.5	5.6	5.4	5.2	5.2	5.3	5.4
平均グロス給与 (€)	1,562	1,670	1,604	1,607	1,710	1,717	N.A.
平均ネット給与 (€)	958	1,021	977	981	1,043	1,050	N.A.

● 財務省 (MF)

	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2	2024/3	2024/4	2024/5
財政収支 (億 lei)	735.48	899.24	78.918	289.873	358.790	572.906	601.042
GDP 比 (%)	-4.64	-5.68	-0.45	-1.67	-2.06	-3.24	-3.40

● ルーマニア中央銀行 (BNR)

	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2	2024/3	2024/4	2024/5
政策金利 (%)	7.00	7.00	7.00	7.00	7.00	7.00	7.00
外貨準備高 (億€)	588.94	597.7	614.16	631.28	642.79	625.11	650.72
経常収支 (億€)	-202	-226.94	-13.58	-27.07	-39.45	-65.76	N.A.
前年同期 (億€)	-243.31	-260.4	-7.60	-21.71	-39.64	-51.91	N.A.
前年同期比 (%)	-16.97	-12.84	+78.68	+24.68	-0.47	+26.68	N.A.
FDI (億€)	63.13	65.87	5.83	12.29	20.95	32.30	N.A.
前年同期 (億€)	95.47	100.39	5.96	13.45	22.16	24.08	N.A.
前年同期比 (%)	-33.87	-34.38	-2.18	-8.62	-5.46	+34.13	N.A.
中長期対外債務 (億€)	1169.65	1211.62	1252.44	1284.39	1290.63	1267.98	N.A.
前年末比 (%)	+18.6	+22.8	+3.4	+5.5	+6.0	+4.1	N.A.
短期対外債務 (億€)	470.14	476.50	478.82	484.10	486.63	450.89	N.A.
前年末比 (%)	+3.9	+5.3	+0.5	+0.2	+0.7	-6.7	N.A.

● 消費者物価指数 (国家統計局 (INS) ・ユーロスタット)

	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2	2024/3	2024/4	2024/5
消費者物価指数 (%)	6.72	6.61	7.41	7.23	6.61	5.90	5.12
食料品価格 (%)	6.84	5.82	5.64	4.48	2.81	2.07	1.24
非食量品価格 (%)	5.08	5.51	7.36	7.82	8.06	7.17	6.38
サービス価格 (%)	11.18	11.21	10.91	11.00	10.20	10.05	9.29
ユーロ圏平均	2.4	2.9	2.8	2.6	2.4	2.4	2.6
EU27 カ国平均	3.1	3.4	3.1	2.8	2.6	2.6	2.7

● 業種別 (前年同期比) (国家統計局 (INS) ・ユーロスタット)

	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2	2024/3	2024/4	2024/5	
鉱工業								
工業生産高 (%)		-4.4	-3.3	-3.9	-2.2	2.8	3.6	N.A.
工業売上高 (名目) (%)		0.4	-4.0	1.9	8.2	-0.5	18.8	N.A.
工業製品物価指数 (%)		-2.6	-3.4	-6.0	-6.3	-7.9	-4.0	-1.0
新規工業受注高 (名目) (%)		-0.2	-1.0	3.5	6.4	-5.2	8.5	N.A.

小売業							
小売業売上高(除:自動車・バイク) (%)	3.3	1.5	5.1	7.1	4.3	9.5	6.1
自動車・バイク売上高(%)	6.4	11.3	0.5	2.7	0.9	11.4	N.A.
小売業売上高 ユーロ圏平均(%)	-1.1	-0.8	-1.0	-0.7	0.7	0.0	0.3
小売業売上高 EU 平均(%)	-1.0	-0.7	-0.6	-0.2	2.0	-0.1	0.6
建設業							
工事(%)	12.7	25.5	-15.0	-5.9	-1.2	13.1	N.A.

(2) 主要経済関連

● インフレ率は 5.12%に下降

- 6月12日、国家統計局は、食料品、非食料品価格及びサービス価格の上昇率が緩やかになったことを受け、5月のインフレ率が5.12%に下降した旨を発表した。

● 2024年4月までのルーマニアへの海外直接投資、前年同期比 34.14%増

- 6月13日、ルーマニア中央銀行は、2024年4月までのルーマニアへの海外直接投資額が前年同期比 34.14%増の 32.3 億ユーロとなった旨を発表した。また、国家貿易登録局は、2024年1～4月にルーマニア内で登録された外国資本の入った事業者数は 2,308 社で、資本総額は前年同期比 46.4%増の 1240 万米ドルだった旨を発表した。

● 2023年のルーマニア人の相対的貧困率は約 400 万人

- 6月28日、国家統計局は、2023年におけるルーマニアの相対的貧困率（可処分所得の中央値の60%に満たない人口の割合）が2022年より5.9万人減少し397万人となり、貧困率は21.1%となる調査報告を発表した。なお、男性の貧困率は21.3%で、女性の20.8%よりも0.5%高かった。

(3) エネルギー関連

● ヌクリアエレクトリカ社 トリチウム除去施設をチェルナヴォーダ原発で設置開始

- 6月11日、ヌクリアエレクトリカ社は、韓国水力原子力発電社と共同で、チェルナヴォーダ原子力発電所に設置される欧州初のトリチウム除去施設の工事開始を発表した。このトリチウム除去施設は、国立極低温・同位体技術研究開発研究所（ICSI）により開発されたルーマニアの革新的な技術を使用している。

● ルーマニア 欧州近代化基金から 11 億ユーロの投資

- 6月25日、エネルギー省は、エネルギー配給網の整備、地域暖房網の改修・近代化、天然ガス送電網、エネルギー効率の高い鉄道車両への投資のために、欧州近代化基金から受ける約 11 億ユーロの投資の、最初の支払い分を受け取った旨を発表した。発表でブルドゥジャ・エネルギー相は、近代化基金はルーマニアのグリーン転換と電力網の近代化にとって不可欠な手段であり、ルーマニアはこの地域の主要なエネルギープレーヤーとして台頭しつつあり、着任後の1年間で、近代化基金と国家復興強靱化計画を通じてエネルギーシステムに融資された投資額は 250 億ユーロを超えた旨述べた。

(4) IT関連ニュース

● 73%のルーマニア人が生成 AI の影響を受けると回答

- 6月25日、ボストンコンサルティンググループ等は、ルーマニア人の73%が、生成 AI が仕事に何らかの影響を与えると回答した旨を発表した。55%のルーマニア人はリスクリングの必要性を強く感じており、40%が必要に応じてリスクリングを受けたいと考えている。日常的に AI を活用しているルーマニア人は23%で、米国人（39%）や仏人（29%）と比較し適応率は低い。また、AI を聞いたことがないと回答した割合は世界平均が14%であるのに対し、ルーマニアでは23%となっている。

(4) 日系企業関連ニュース

- **住友商事、農業資材卸売業者ナチュレボを買収**

- 6月4日、Ziarul Financiar は、ルーマニアで大手農業資材卸売業者アルチエドを所有する住友商事が、同じく農業資材卸売業者ナチュレボの買収交渉を進めている旨報道した。
- 6月17日、ルーマニアの農業資材卸売業者のナチュレボ社は、同じくルーマニアの大手農業資材卸売業者アルチエド社を所有する住友商事が同社を買収した旨発表した。同社は種子、肥料、バイオスティミュラート、飼料などの農業資材を販売しており、2023年の売り上げは約3556万ユーロ（1.77億レイ）。

(5) その他トピックス

- **ルーマニアの容器包装リサイクル率は38%**

- 6月19日、国家統計局は、ガラスびんのリサイクル率が28%、空き缶のリサイクル率が44%にとどまっていることから、容器包装のリサイクル率が38.31%にとどまっている旨の情報を発表した。なお、プラスチック製容器包装及び紙製容器包装のリサイクル率は改善傾向にある。

- **70%のルーマニア人がデポジット製の容器包装の返却に参加**

- 6月21日、Agerpres は、2024年6月時点でルーマニア人の70%がデポジット製の容器包装の返却に参加しており、2023年11月時点の36%から飛躍的に改善している旨の調査結果を発表した。特にペットボトルの返却は84%の国民が参加しており、ガラスびん（56%）及び空き缶（55%）と比べ高かった。

外政

(1) ウクライナ関連

● UNHCR 発表避難民動向データ

- ウクライナ人のルーマニア国内滞在者数：80,654 人（6 月 10 日、4 月 21 日時点から 5,084 人増）
- 一時的保護の登録人数：169,644 人（6 月 10 日、4 月 10 日時点から 8,272 人増）

● オドベスク外相、ドイツ・ベルリンで開催されたウクライナ復興・再建・近代化に関する国際専門家会議に出席

- 6 月 12 日、オドベスク外相は、ドイツ・ベルリンで開催されたウクライナ復興・再建・近代化に関する国際専門家会議に出席し、ルーマニアはウクライナの復興プロセスに積極的に関与・支援し、具体的な行動を通じて国際連帯を維持する必要性を強調した。

● オドベスク外相、スイス・ビュルゲンシュトックで開催されたウクライナの平和に関するサミットに出席

- 6 月 15～16 日、オドベスク外相は、スイス・ビュルゲンシュトックで開催されたウクライナの平和に関するサミット内の世界の食料安全保障に関するテーマ別セッションでスピーチを行い、ウクライナの穀物輸出を促進するルーマニアのダイナミックな役割を紹介し、現在も活発なペースで輸出が続いている旨発信した。

(2) 要人往来

● ヨハニス大統領、ラトビア・リガで開催されたブカレスト 9 会合に出席

- 6 月 11 日、ヨハニス大統領は、ラトビア・リガで開催されたブカレスト 9（B9）会合に出席し、ロシアが欧州の安全保障にとって最大のリスクであり、B9 諸国が黒海からバルト海までの NATO の抑止力と防衛態勢の継続が必要である旨発言した。あわせて、ウクライナへの支援の継続・強化の必要性を訴えた。
- また、欧州・大西洋地域全体の安全保障における黒海地域の重要性と、大量のウクライナ避難民とロシアによるハイブリッド攻撃の影響を受けているモルドバへの支援の必要性についても訴えた。

● オドベスク外相、ルーマニアの NATO 加盟 20 周年及びルーマニア・米国戦略対話第 9 回会合のために訪米

- 6 月 19～21 日、オドベスク外相は、ルーマニアの NATO 加盟 20 周年及びルーマニア・米国戦略対話第 9 回会合のために訪米し、プリンケン国務長官と会談をした。オドベスク外相は、米国による黒海戦略の改訂版の策定をルーマニアが重視していること、また黒海の安全保障、開発、相互連結性という共通目標の実施にルーマニア当局が協力する用意がある旨表明した。また、ルーマニアが米軍を長期的に受け入れることに改めて関心を示した。
- また、両者は外国による情報操作への対処に関する MOU に署名した。

(3) ヨハニス大統領 NATO 事務総長への立候補を取り下げ

- 6 月 20 日、ヨハニス大統領は、国防最高評議会において、前週末に NATO 同盟国に対して NATO 事務総長への立候補を取りやめることを表明した旨発表し、国防最高評議会メンバーに対し、ルッテ蘭首相の NATO 事務総長への立候補について賛成票を投じるよう要請した。

防衛・安全保障

(1) イベント等

- **フィンランド空軍の F/A-18 戦闘機が第 57 空軍基地に到着**
 - 6月3日、フィンランド空軍の F/A-18 ホーネット戦闘機 7 機が、第 57 空軍基地に到着した。約 90 人のパイロットと整備員から構成されるフィンランド空軍分遣隊は、ルーマニア空軍の兵士と英国空軍の兵士とともに、NATO の指揮下でルーマニア領空警備任務を約 2 か月間実施する予定である。
- **ボボック空軍基地にてエアショーが開催**
 - 6月15日、ボボック空軍基地（ブザウ県）において、ルーマニア空軍をはじめ、内務省、ルーマニア海軍、NATO 各国、民間からの航空機などが参加するエアショーが開催された。
- **ルーマニアへの自走榴弾砲、韓国のハンファ・エアロスペース社が落札**
 - 6月19日、トゥルヴァル国防大臣は、韓国の申源湜（シン・ウォンシク）国防部長官と二国間協議を実施し、その中でトゥルヴァル国防大臣はルーマニア軍の 3 個大隊向け 155mm 自走榴弾砲の競争入札において、韓国のハンファ・エアロスペース社が、54 両の K-9 サンダー-155mm 自走榴弾砲をもって落札したことを歓迎した。
- **国防最高評議会、ウクライナに対するルーマニアのパトリオット・システムの供与を決定**
 - 6月20日、ルーマニア国防最高評議会は、ルーマニアが現有するパトリオット・システムをウクライナへ供与することを決定した。
- **ルーマニア、NATO 第 2 常設機雷対処部隊（SNMCMG2）の指揮を執る**
 - 6月28日、ギリシャのサラミス海軍基地における SNMCMG2 の式典において、ルーマニア海軍はギリシャ海軍から SNMCMG2 の指揮権を引き受けた。ルーマニア海軍は以降、半年間にわたり SNMCMG2 の指揮を執る。
- **ノルウェーから追加で 3 機の F-16 戦闘機が到着**
 - 6月28日、クンピア・トゥルジーの第 71 空軍基地第 48 戦闘飛行隊に、ノルウェーから F-16 戦闘機 3 機が到着・配備された。

(2) 訓練・演習等

- **多国籍軍事演習「RALY24（Ramstein Legacy24）」の実施**
 - 6月3日～14日、統合防空(IAMD：Integrated Air and Missile defense)の多国籍軍事演習である「RALY24（Ramstein Legacy24）」演習が、カブ・メディアの防空訓練学校で実施された。演習には NATO10 カ国(チェコ、フランス、ドイツ、リトアニア、ポーランド、ポルトガル、スロバキア、トルコ、ハンガリー及びブルーマニア)から 1300 人が参加し、ルーマニアからは F-16 戦闘機、IAR-330 ヘリコプター、IAR-99 近接航空支援航空機、YKA-52 練習機などの各種航空機や地上防空システム、指揮統制システムなどが、各国からは軍用機、パトリオット・ミサイルシステム、HAWK ミサイルシステムなどが、それぞれ参加した。
- **多国籍軍事演習「EP MCM DIVE24」（海軍機雷対処・潜水演習）の実施**
 - 6月10～14日、ルーマニア海軍が主催する海軍機雷対処・潜水演習（EP MCM DIVE24：European Partnership Mine Counter Measures DIVE）が、コンスタンツァ港及び黒海の演習海域において、ブルガリア、フランス、トルコ、米国などの参加を得て実施された。

(3) 会談等

- **国防次官、ルーマニア・モルドバ合同軍事委員会の新会合に出席**
 - 6月6～7日、コジョカル国防次官は、キシナウにおける第 9 回ルーマニア・モルドバ合同軍事委員会にルーマニア国防省を代表して出席した。モルドバからはミジャ国防次官が出席し、委員会の冒頭セッションで両者は、特に黒海地域における複数の安全保障上の脅威を特徴とする現在の地政学的状況において、ルーマニアとモルドバ間の防衛協力の重要性を強調した。

● 国防大臣、NATO 国防大臣会合に出席

- 6月13～14日、トゥルヴァル国防大臣は、ブリュッセルのNATO本部で開催されたNATO国防大臣会合に出席した。会合では、①ウクライナ国防大臣とEU上級代表が参加するNATO・ウクライナ理事会のセッション、②抑止力と防衛態勢強化に特化したセッション、③核計画グループセッションが行われた。
- ①でトゥルヴァル国防大臣は、ウクライナ支援を継続し、NATOからの多面的支援を強化するという重要な政治的シグナルを送るとともに、「我々はウクライナを支援し続ける必要がある。この点に関して、具体的かつ実質的な行動を通じて、同盟国レベルでの結束が引き続き非常に重要である」と強調した。
- ②では7月9～11日にワシントンDCで開催されるNATOの創設記念となる首脳会合で扱われる予定の「抑止」と「防衛」に関する議題が取り上げられ、トゥルヴァル国防大臣は、地域防衛計画の実施に必要な兵力と能力の確保に重点を置きながら、あらゆる脅威に対抗するためにNATOの抑止力と防衛態勢の適応を加速する措置を継続することの重要性を強調した。
- ③では、NATOの核政策と計画について協議された。

● 国防大臣、ウクライナ支援に関する会合に出席

- 6月13日、トゥルヴァル国防大臣は、NATO国防大臣会合の傍ら、オランダのオロングレン国防大臣、米国のオースティン国防長官、ウクライナのウメロフ国防大臣とウクライナ支援に関する会合を開き、ウクライナの治安情勢に関する最新の動向を分析した。議論の焦点は、ロシアによる侵略戦争の中で、ウクライナを支援するための防衛努力の調整と強化、防空能力の強化を目的とした解決策の導出だった。
- トゥルヴァル国防大臣は、戦争が始まって以来実施しているウクライナ支援を継続するというルーマニアのコミットメントを再確認し、多国間支援の枠組みの中でNATOと非常に良好な協力関係を築いていることを高く評価した。

● 国防大臣、ウクライナ国防大臣と会談

- 6月13日、トゥルヴァル国防大臣は、NATO国防大臣会合の傍ら、防衛分野におけるウクライナ・コンタクト・グループ会議に参加するとともに、ウクライナのウメロフ国防大臣と二国間会談を実施した。
- トゥルヴァル国防大臣は、ウクライナへの支援を継続するというルーマニアの確固たるコミットメントを再確認し、ルーマニアとウクライナのパイロットを対象とした欧州F-16訓練センターをルーマニアに受け入れ、運用するためのルーマニアの取り組みに関連する進展を紹介するとともに、ルーマニアによる様々な形式でのウクライナ軍人に対する訓練への貢献を継続することを強調した。また、両大臣はウクライナ及び黒海地域の治安情勢の進展について議論し、黒海における機雷の脅威に対応するためのルーマニア、トルコ、ブルガリアのイニシアチブ（MCM Black Sea）の役割を強調した。

● 国防大臣、カナダとの防衛分野における覚書に署名

- 6月14日、トゥルヴァル国防大臣は、NATO国防大臣会合の傍ら、カナダのブレア国防大臣とともに、ルーマニア国防省とカナダ国防省間の防衛分野における二国間協力に関する覚書に署名した。
- この覚書によって、防衛計画、兵站、空軍、防衛産業、軍事機関における要員の訓練、軍事演習、サイバーセキュリティなどの分野における両当局間の協力のための法的枠組みが強化された。

● 国防次官、米国を訪問し第9回戦略対話に出席

- 6月20～22日、コジョカル国防次官はワシントンDCを実務訪問し、ルーマニア国防省を代表してルーマニアと米国の第9回戦略対話に出席した。国防に関するセッションでは、ロシアによる侵略戦争の文脈で、黒海地域の安全保障状況とルーマニアがウクライナに提供した支援について発表し、7月にワシントンDCで開催予定のNATO首脳会合におけるルーマニアの優先事項や軍事インフラへの投資の状況、現在の地政学的課題に対応するための新たな共同プロジェクト開発の見通しについても強調された。

● 国防大臣、トルコ・イスタンブールを訪問

- 6月25日～26日、トゥルヴァル国防大臣はトルコのギュレル国防大臣の招待によりイスタンブールを訪問し、ブルガリア、ルーマニア、トルコが署名した黒海機雷対処タスクグループ（MCM Black Sea: Mine Counter Measures）に関連するトルコの艦艇や関連施設、造船所などを視察した。

我が国との関係

(1) 二国間関係全般

● 片江大使、イサレスク・ルーマニア中銀総裁を表敬

- 6月5日、片江大使は、イサレスク・ルーマニア中央銀行総裁を表敬訪問した。懇談では、両国の中央銀行の関係、以前ルーマニアで起債されたサムライ債の話、外交関係樹立100周年、戦略的パートナーシップ、ルーマニア経済における中銀の役割、両国の経済関係等について忌憚のない意見交換が行われた。



● 片江大使の在ルーマニア日本商工会によるティミショアラ・ミッションへの参加

- 6月19日、片江大使は、在ルーマニア日本商工会によるティミショアラ・ミッションへ参加した。
- 同ミッションにおいて、片江大使は、6月9日の地方選挙で再選されたばかりのフリッツ・ティミショアラ市長やラツカウ同副市长他との意見交換に参加したほか、NOKIAイノベーション・ガレージツアー & プレゼンテーション、ティミショアラ工科大学によるティミショアラにおけるスタート・アップに関する説明に参加した。
- 同ミッションは、このほか、アサヒグループホールディングス株式会社が買収したティミショアラ・ナ・ビール醸造所の視察、ティミシュ県商工・農業会議所関係者との意見交換、レカシュ・ワイナリー視察を行った。



● 片江大使、イヴァン研究・イノベーション・デジタル化相を表敬訪問

- 6月26日、片江大使は、イヴァン研究・イノベーション・デジタル化相を表敬訪問し、昨年クルージュで開催された第1回日・ルーマニア・イノベーション・フォーラムに続き6月28日に東京で開催された第2回同フォーラム、日・ルーマニア両国学術・民間企業が連携して取り組む極限レーザー核物理研究所（ELI-NP）の研究開発など、イノベーション、先端技術分野での連携について意見交換が行われた。



● オヴィディウ・ラエツキ氏、駐日ルーマニア大使に任命

- 6月27日、ヨハニス大統領は、オヴィディウ・ラエツキ氏を正式に駐日ルーマニア大使に任命する政令に署名した。

(2) 広報・文化関係

● 第2回 ルーマニア寿司カップが開催

- 6月8日、第2回ルーマニア寿司カップが開催され、片江大使が出席し挨拶を行った。ルーマニア寿司カップは、2022年6月に第1回が開催された。今大会は、ヴラド・タナシエ氏（クルージュ・ナポカ市寿司レストラン「Sushi Omakase」シェフ）が見事優勝し、本年8月に日本で開催予定の2024年度世界寿司カップに出場することになった。



● トランシルバニア国際映画祭 日本が特集国に

- 6月14～22日、日本が特集国に選ばれたトランシルバニア国際映画祭（TIFF）が開催された。今回の映画祭では、日本映画16本が上映される他、日本文化団体による折り紙やマンガ、茶道、生け花といった日本文化のワークショップが開催された。
- 15日には TIFF と当館共催による記念レセプションを開催し、映画関係者やクルージュ所在の大学・企業関係者、文化関係者等に開催地クルージュ・ナポカで日本食普及親善大使として活動する土屋シェフによる日本食や日本酒など、日本の飲食文化を紹介した。



● シビウ国際演劇祭 日本から5団体が参加

- 6月21～30日、第31回シビウ国際演劇祭（FITS）が開催された。今回のFITSでは、日本から自由劇場、日本大学芸術学部、鈴木ユキオプロジェクト、山本能楽堂の4団体による公演、文楽座によるワークショップが実施された。



(3) 日本でのルーマニアの取り組み

● 2025年大阪・関西万博のルーマニアパビリオンの着工式が開催

- 6月21日、ルーマニア及び日本の政府関係者が出席の元、2025年大阪・関西万博のルーマニアパビリオンの着工式が大阪で開催された。外務省は、パビリオンのテーマを持続可能性とし、リサイクル・リユースにより開発される旨発表。

● 第2回日・ルーマニア・イノベーション・フォーラムの開催

- 6月28日、JETRO 及び駐日ルーマニア大使館は、共催で第2回日・ルーマニア・イノベーション・フォーラムを東京で開催した。同フォーラムでは、日・ルーマニア両国の来賓による挨拶に続き、ルーマニア初のユニコーン企業であるユーアイパス（UiPath）、NTTデータ（ビデオ参加）、日立製作所、ffベンチャー・キャピタルによる講演の他、ルーマニアから参加した8社のピッチが開催され、終了後には商談会が開催された。

- **ルーマニア対日友好議連一行の訪日**

- 6月下旬～7月初旬、シルヴィウ・ニク・マコヴェイ・ルーマニア対日友好議連会長（Mr.Silviu Nicu MACOVEI）一行は日本を訪れ、額賀福志郎衆議院議長、日・ルーマニア友好議員連盟会長の逢沢一郎衆議院議員や穂坂外務大臣政務官と面会した他、三宅防衛大臣政務官、姫野関西地区担当特命全権大使、加藤在大阪ルーマニア名誉総領事とも面会した。
- また一行は、上述の日・ルーマニア・イノベーション・フォーラム、在日ルーマニア大使館主催レセプションなどに参加し、植田前在ルーマニア日本国大使とも再開を果たした。